

～すてきな人・モノ アートの冊子～

ふじみ野

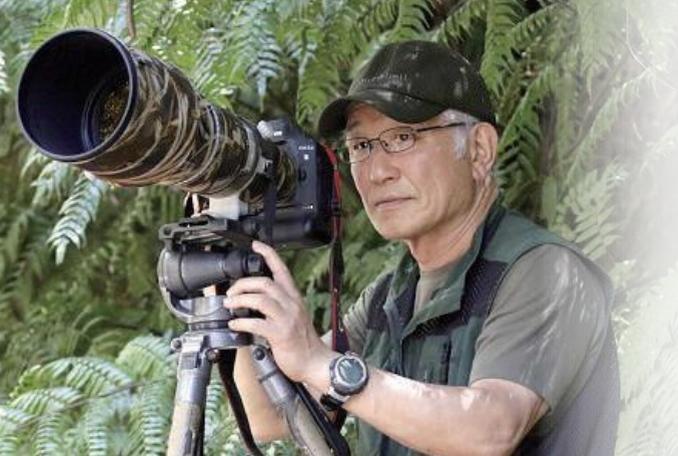
ART88

アート発見発信
プロジェクト



イラスト RIKI

Vol.5
2020.3.25



～ 瞬間の魅力～

写真家 嶋田 忠

しまだ ただし



カワセミ 撮影 嶋田 忠

嶋田 忠 Facebook
<https://www.facebook.com/thebirdwatchingcafe/photos/>



「なぜ鳥は華奢な体で速く飛べるのだろう」
鳥の瞬間的な動きにのめり込んだ少年は、好奇心を持ち続ける写真家として70歳を迎えました。嶋田さんは、少年時代を武蔵野の緑豊かな環境（旧大井町）で過ごし、自宅で1坪半ほどの鳥小屋を作り飼育していました。高校に進学したとき、お母様からカメラをプレゼントしてもらったことを契機に野鳥の撮影を始めます。撮影方法は独学。当時出版されていた野鳥の写真集を研究しました。20歳の時、千曲川でカワセミの鮮やかに獲物を狩る瞬間に魅了され、地元に戻った後、高麗川でカワセミの撮影を始めます。24歳で動物雑誌『アニマ』でデビュー。1979年、写真集『カワセミ 清流に翔ぶ』を出版。写真集をきっかけに、高麗川に写真愛好家が集まり、日高市の鳥がカワセミになるなど、多くの影響を与えました。31歳の時、カワセミの一種の「アカショウビン」を撮影するため、家族全員で北海道に移住。その後フィルムでの色彩表現に限界を感じ、デジタルの世界へ移行。東急文化村でのデジタル映像の演出で高い評価を得ました。

現在は、海外のユニークな求愛ダンスを踊る「極楽鳥」や夜の闇に紛れて滑空する「シマフクロウ」、水面を走るトカゲの「バシリスク」などの瞬間を撮影しています。瞬間を撮影するため、自身を自然の中に溶け込ませ、その瞬間が来るのをじっと待っているのです。皆さんも野生の瞬間を感じてみませんか。日常の中に新しい発見があるかもしれません。

文 / 鎌田恭美代

自然のあるがままの姿を大切に

～ 季の木～ 大久保すずか

おおくぼ

中央通りにある「季の木」をご存じですか？
お店の看板のとおり、季節の花を大切にしています。「植物が持っている自然のあるがままの形を尊重し、寄り添って生けています」と大久保さんは語ります。

植物を愛し、それぞれの植物が季節ごとに持っている良さを最大限に引き出すことで、大胆かつ繊細な日本独特の「わび・さび」を表現しています。華道や茶道もたしなみ、時代に沿いながら日本文化の伝統や日本の花を守りたい、自らの活動を通して、若い方々の興味を引き出したいと、その活動の一環として季節の花を使ったワークショップや教室を開いています。華道は多くを入れず、必要なものだけを厳選して生けていくという「引き算」の文化だそうです。花を生ける上で、日本文化の「間」を上手に取り入れることを大切にしています。

幼いころから花や緑に囲まれて育ち、自然と現在のお仕事に就きました。日本で生まれている花の種類にこだわり、「経験を積み重ねることが大切で、まだまだ勉強しなくてはなりません」と強い向上心を持ち、ご家族の畑で実際に



ワークショップで制作した
ドライフラワーのプレスレット



花や野菜を育て、日々自然と触れることから学んでいます。花に携わる上でのベースをご両親はじめ、多くの方々からの教を基本として、独自のアレンジを加えながら継承しています。

日本の伝統文化に関わる方々が少なくなる中で、若い大久保さんの今後の活躍がますます楽しみです。



ドライフラワーの花束

季の木

ふじみ野市上福岡 2-3-7
メール ponto.verde.suzuka@gmail.com
TEL 080-6584-3573
Instagram [ponto_verde_suzuka](https://www.instagram.com/ponto_verde_suzuka)
木曜定休

※木曜以外でも野良仕事のため休業する場合があります



文 / 鎌田恭美代

手作りの絆が織りなすもの

手作り雑貨販売会

D☆Market

ディーマーケット



誰かを想い、その人のために何かを作ろうとすること。人生の中で誰もが一度は経験したことではないでしょうか。大量生産で作られたものではない、世界にたった一つのもの。その手仕事は言葉では表すことのできない様々な想いを伝えます。

ハンドメイド好きのお母さんたちのグループが集まり、2014年から開催されているD☆Market（ディーマーケット）。手作り好きな人々が集まる事が出来て、作ったり購入したりを楽しめる空間を提供したいという想いから生まれました。ちなみに、D☆MarketのDは団地のDとのこと。開催場所のコミュニティの気さくな温かさや絆の強さを感じるネーミングです。布小物やアクセサリなどのワークショップも充実しており、作家さんに教わりながら自分で作る楽しさも味わえます。また、お母さん目線からの子ども向けの作品も多く、毎回多くの親子連れで賑わっています。日常生活にある手作りのものは、子どもたちにとってもお母さんの優しい眼差しを感じられるも

の。そんな愛情あふれる作品が多く出品されています。

作り手が自分の好きな技法で自身を表現し、そして、その手を通して生まれた作品は、受取り手の心に癒しやぬくもりといった眼には見えない何かを伝えてゆきます。そこでやり取りされた想いは、絆という一本の糸になり、このマーケットの交流で広がりながら、一枚の美しいタペストリーを織り上げているようにも見えました。



D☆Marketは年に2回
6月と11月に開催しています。



D☆Market ブログ
<https://ameblo.jp/d-market138/>

文 / 尾澤景子

音楽は人が繋がる
『場』を作ることができる芸術

ギタリスト
富成 千之

とみなり ちゆき



ふじみ野市在住のギタリスト富成千之さんがギターを始めたのは小学校5年生の頃でした。出身地の愛知県は楽器製造が盛んで、親戚のおじさんがくれたギターがきっかけに。当時、楽譜もあまりない中、見よう見まねで必死に練習。高校生の頃は時間が許す限りライブハウスへ行く生活で、ジャズやラテンが大好きになり、貪り聴いたそうです。そして、その音楽の背景にある人種差別や貧困を知り、世の中の不条理を何とかしたいと言う内なる切実な想いを抱き行動を起こすことに。この時期の様々な経験が富成さんの基礎を形成しました。「音楽から離れていた時期もあるんですよ」と言う表情には、何かをやりきった人の持つ清々しさがありました。

やがて、再び純粋に音楽に向き合いたいと言う思いが湧き上がり、音楽の力や本来の役割を追求することに。活動はライブが中心で、上福岡のBLANC(ブラン)はじめ全国各地で演奏。他に作曲・プロデュース・ギターやウクレレ教室の先生・介護施設でのボランティア演奏と多彩

です。「ライブでは演奏者と観客が、与える人と受け取る人と言う一方通行の関係を越え、繋がることのできた時、ライブ会場は何かが生まれる『場』となる。その瞬間をつくる事ができるのが音楽と言う芸術です。日常とはかけ離れた特別な『場』を通じて、人に幸せになって欲しい」と語る富成さんのライブへ出かけてみませんか？本誌を手に取り、読んだあなたは、既に繋がっていますね！



一般のギターは6弦ですが、富成さんは自身が考える音楽を目指し、10弦ギターと11弦ギターを使用しています。

富成 千之 Facebook

<https://ja-jp.facebook.com/chiyuki.tominari>

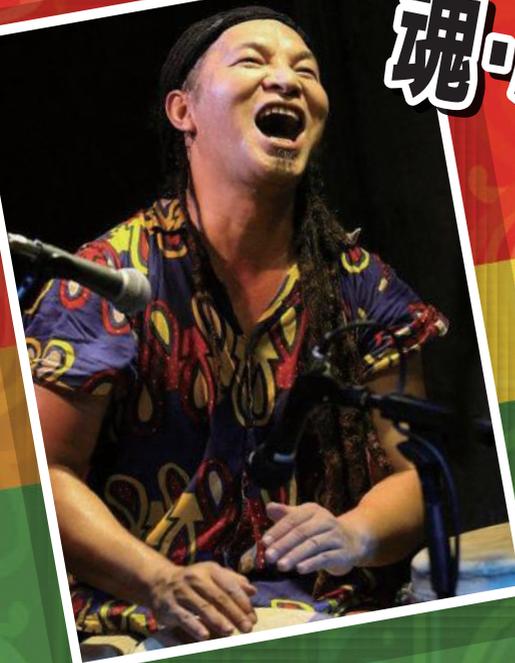
ライブの予定・ギターやウクレレ教室については、富成さんへご連絡ください。
メール kumapootomi@yahoo.co.jp
TEL 090-8689-4074



※ BLANC(本誌vol.2掲載)は2018年12月移転しました。
新住所: ふじみ野市上福岡1-15-3 080-5440-2872(ヌクイ)

文 / 井上芳枝 写真撮影 / みのもけいこ(ギャラリーハチドリ)

魂・心をつなぐアーティスト!



アフリカン打楽器奏者
永原元 ながはら げん



くり、家族のような温かいもてなしの心を感じる素晴らしい機会にもなりました。帰国後「BO GUMBOS(ボ・ガンボス)」ボーカル・ギターの「どんと(久富隆司)」さんの紹介もあり、多くのアーティスト活動に参加し、プロデビュー。現在は世界を股にかけ、ソロ活動の傍ら、子ども達をはじめ、地域の人達等にジャンベを通じて、音楽の魅力を伝えるとともに、音楽がもつ「つなぐ力」の素晴らしさを未来の世代にも受け継いでいきたいと活動中です。

※未経験者でも誰でも(楽器がなくても)体験できるワークショップを開催中
お問合せ:「音喫茶 一乗」
川越市熊野町 22-1 TEL 049-246-7822

永原元
ブログ <https://ameblo.jp/tureture-gen/>



圧倒的な存在感と美しさ、そして心地よい音色を持つアフリカの打楽器「ジャンベ」! ふじみ野市在住の永原元さんは、北海道育ちで、小学生の頃は、友達の家に行き、その友達のお父さんのオーディオルームで「YMO(坂本龍一さん達がいたグループ)」を聴く少年でした。中学生の頃にバンド活動をはじめ、その世界にのめり込んでいきました。ジャンベとの出会いは大学生の時、米国ニューオリンズ行きの旅をいったんは計画したものの、直前になり、あまり人が行かないところに行きたいという理由で、ケニア行きに変更しました。しかし、そこで運命的な出会いがありました。ケニア滞在中のある日、どこからともなく聞こえてくる打楽器の音色をたどってみると、ビルの屋上で、歌・打楽器(ジャンベ)・ダンスをしているグループがいました。するとそのケニアの人達は、見ず知らずの永原さんを自然に受け入れ、演奏の輪に入れてくれました。ジャンベとの出会いは、人と人の繋がりをつ

才能のプログラミング イラストレーター・漫画家



リキ



漫 画家、イラストレーターであり、ゲームや音楽、アニメなど幅広い分野で活躍する人気クリエイターの地元が、なんと、このふじみ野市であるということをご存じでしょうか?8ビット表現の作品を多数発表されて、世界のメディアからも注目を集めているRIKIさん。市内小学校のサマーチャレンジではご自身の職業を活かし、子どもたちにイラストやゲームの授業をされています。

バーチャルとリアル、内と外、相反するものを同時に自身の内に持ち、人を惹きつける表現の豊かさはRIKIさんの子ども時代の過ごし方にありました。ちょうど遊び文化にゲームが登場した時代で、友人とゲームをしたり、外で虫捕りやザリガニ釣りをしたりと暗くなるまで遊び、一人の時は自由に買ってもらえたというスケッチブックに絵ばかり描いて過ごしていたそうです。その多芸多才な表現



ゲーム名「キラキラスターナイト」個人開発したゲームが、ふじみ野市のふるさと納税返礼品となり、2018年度ふじみ野市の1番人気となりました。



の背景には、たくさんの「遊び」というプログラムが隠されていました。

RIKIさん曰く、人類の歴史の中で最もゲームが普及しているこの時代、将来の職業の選択肢としてゲームを作成することは大いにありうる、とのこと。未来の子どもたちにとって、自分が持つ多くの可能性とそれを実現させていく力を、自分の人生にどうプログラムしていくかということは、RIKIさん自身の生き方がヒントになるのではないのでしょうか。そして、そういうクリエイターに触れることは、多くの子どもたちの才能の扉をひらく鍵になるのだと思います。RIKIさんの今後の活躍が楽しみです。



印刷所やお店のイメージイラスト等、多数作成しています。

RIKI HP <http://riki2riki.com>



文 / 尾澤景子

～ふじみ野アート88 (発見・発信) 私たちが目指すもの～

世の中の価値観が、日々目まぐるしく変わってゆくこの時代。気候変動による自然災害や、不安定な世界経済。目に映る世界は良くない方向に向かっていくようにも思えます。しかし、意識のベクトルを変えて、もう一度世界を見てみると、様々な分野で多くの人々が活躍していることに気づきます。

ひとりとして同じ人がいないこの世界、そこで各人が表現するものや出来事は、ひとつとして同じものはありません。そしてこの世界は、その唯一である私たち一人ひとりが集まって出来ているものです。

私たちは、既成のアートという概念やジャンルにとらわれることなく、人の存在によって表現され繋がりを生み出してゆくものをアートと位置

づけ、ふじみ野市内のクリエイターを発見し、その情報を発信してゆきたいと考えています。既成概念のような固定されたものではなく、変化のある流動的な生きた関係性こそが、お互いの心に新しいものを生み出し、発展してゆくのではないのでしょうか。

皆さまが見つけたふじみ野市内のアートに関する情報も共有し、私たちも一緒に新しいものを作り出していきたいと思っています。見たものや感じたことに関するご意見をいただけると嬉しいです。

このアート88という冊子が新たな繋がりのおかげとなり、多様性に満ちたふじみ野市全体が一つの美しいアートになることを私たちは願っています。

スタッフ / 井上芳枝・尾澤景子・鎌田恭美代・篠島幹昌・染川広行・RIKI (50音順)
このプロジェクトは上記6名の公募スタッフにより企画・取材及び編集を行いました。



ART88のバックナンバーは右記QRコードリンク先よりご覧頂けます。



ふじみ野市主催

アートフェスタふじみ野

毎年秋、きく・みる・参加するをテーマに、コンサートやワークショップなどを開催します。アート88メンバーはもとより、様々なジャンルのアーティストが多数参加します。ぜひご来場ください。開催日時は市報等でお知らせします。

前回の様子は
こちらでご覧
頂けます。



発行 / ふじみ野市文化・スポーツ振興課
編集 / ART88 プロジェクトスタッフ

356-8501 埼玉県ふじみ野市福岡1-1-1

TEL.049-262-8124

E-mail bunka@city.fujimino.saitama.jp

紙面デザイン/ライブプリント info@liveprint.jp